まえがき

心理臨床家になるトレーニングを受ける際に、まずレクチャーされるのがロジャーズのカウンセラーの三条件です。その三条件とは「自己一致または純粋性」「無条件の肯定的尊重」「共感的理解」の三つです。さらにまとめて「受容と共感」などとも言います。

当時、集中的に精神分析のトレーニングを受けていた時でもあり、「いかにも素朴な理論だ」と思いました。はっきり言うならば、「これはあまり臨床には役立たないのではないか」とも思いました。

それが一変する出来事がありました。名古屋大学大学院で田畑治（たばたおさむ）教授にご指導を受けた体験です。特に博士論文の口頭試問の際、もうその頃は名古屋大学を退官された後だったのですが、わざわざ名古屋大学までお越しくださり審査に加わってくださいました。

そして１時間近くにわたってその他の審査の先生の前で鶴田の「人となり」をお話し下さいました。その当時は、博士論文の審査に、その人の「人となり」を話すのは少し奇妙に感じましたが、心の中で手を合わせておりました。

それからかなりの年月が経ち、やっとその意味が分かりました。田畑先生が話されたことは「カウンセラーの三条件を満た

す人物になれ」とのメッセージであったということです。そこから「三条件」自体を研究対象にし始めたわけです。

しかし、その道はあまりにも険しかったです。ロジャーズがアメリカ人であることはアメリカの歴史・文化・風土に根差した理論であるということですし、当然、牧師を目指していたロジャーズの過去を考えても宗教の影響も無視できません。

アメリカの宗教と言っても「キリスト教が主体であり、さらにその中でもプロテスタントが主体である」程度のことしか認識していなかった私は「アメリカの宗教」の勉強から始めました。また同僚の政治学専攻・村上智章(むらかみともあき)先生の紹介でヴェーバーの『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』を読んでみたこともありました。

遅々として研究が進まない中、散歩をしていてふと田畑先生のお顔を思い出しました。そして「三条件」を満たしている先達たち、樋口由子(ひぐちよしこ)先生、河合隼雄(かわいはやお)先生、國分康孝(こくぶやすたか)先生、國分久子(こくぶひさこ)先生、伊藤隆二(いとうりゅうじ)先生、岩村聡(いわむらさとし)先生などが次々に思い出されました。そこから一気に本書を書きあげました。

上の七人の方に共通しているのは、クライエントに対するunderstanding な態度です。understand は語源を辿れば「下に立つ」であり、つまり上から目線でクライエントを眺めているのではなく、クライエントの視点まで下がることを指します。ただし「クライエント――カウンセラーの役割関係は崩さずに」です。これらをまとめると、「カウンセラーの三条件」になるのです。

以上のような観点から本書を執筆いたしました。最後になりましたが、公私ともにお世話になり続けている田畑治先生に本書を捧げます。

2018 年 3 月

鶴田一郎

C.R. ロジャーズの「カウンセラーの中核三条件」における
キリスト教的側面

目　次

第１章　C.R. ロジャーズのカウンセラーの中核三条件におけるキリスト教的側面 ― (1)「自己一致」について ― …… 9

Ⅰ．はじめに ― 問題の所在 ―　11

Ⅱ．「最も小さき者」とは ― 聖書より ―　19

Ⅲ．「最も小さき者」として覚醒すること ― アウェアネス ―　23

Ⅳ．「最も小さき者」へ向かう回心 ― 変革体験 ―　30

Ⅴ．おわりに ― まとめに代えて ―　37

引用文献　39

第２章　C.R. ロジャーズのカウンセラーの中核三条件におけるキリスト教的側面 ― (2)「無条件の肯定的尊重」について ― …… 42

Ⅰ．はじめに ― 問題の所在 ―　43

Ⅱ．ロジャーズの両親のキリスト教信仰 ―「条件付きの愛」― 51

Ⅲ．「アガペ」と「無条件の肯定的尊重」　59

Ⅳ．おわりに ― まとめに代えて ―　66

引用文献　70

第３章　C.R. ロジャーズのカウンセラーの中核三条件における
キリスト教的側面 ― (3)「共感的理解」について ―
…… 72

Ⅰ．はじめに ― 問題の所在 ―　74

Ⅱ．「最も小さき者」の相互理解 ― 了解 ―　80

Ⅲ．「最も小さき者」と共に歩むカウンセリング ― 同行 ―
83

Ⅳ．「最も小さき者の下に立つ」とは　85

Ⅴ．「ハーバート・ブライアンの事例」(1942) ― ロジャーズの「不適切な応答」をめぐって ―　88

Ⅵ．おわりに ― まとめに代えて ―　98

引用文献　101